



なぜなぜクイズ 回答・解説

- A 1** 正解 ○
喫煙は、月経不順や不妊などの原因になったり、妊娠、出産や子どもの健康に悪影響を及ぼします。また、狭心症や心筋梗塞、肺気腫等さまざまな病気の危険因子となりますし、発がん物質も含まれているので、がんにもなりやすくなります。自分が吸わなくても、副流煙でも悪影響があります。
- A 2** 正解 ×
第1子を妊娠した時の年代は、24歳以下で9.9%、25～29歳で33.1%、30～34歳で33.3%、35歳以上で20.4%となっています。近年は35歳以上が増えています。(P14・表3参照)
- A 3** 正解 ×
35歳以上での出産を高年齢出産と言います。高年齢出産は早産を含め妊娠中の異常や、出産時に危険が伴うこともあります。赤ちゃんが犠牲になるリスクも高くなります。低出生体重児や先天性の病気の割合も上昇します。
- A 4** 正解 ×
卵子の数は、出生時は200万個、思春期には20～30万個、そして閉経時には0に近づきます。年齢とともに卵子の数は減少し、老化もします。(P13・表1参照)
- A 5** 正解 ○
精子にも老化があり、40代になると運動率、質が低下し、50歳を過ぎると遺伝子の異常が起こりやすくなります。
- A 6** 正解 ○
体重が減ることによって女性ホルモンが不足し、生理不順や排卵障害を起こすことがあります。急激なダイエットは妊娠に悪影響を及ぼします。
- A 7** 正解 ○
日本では妊娠を希望する夫婦が2年を経ても妊娠しない場合、不妊症と言っています。不妊症の発現率は、10組の男女に1組の割合と言われています。
- A 8** 正解 ×
妊娠するのが女性ということもあり、不妊は女性だけの問題と思われがちですが、原因は女性のみ30%、男性のみ30%、両方10%、検査しても原因となる問題が見つからない場合も25%ほどあります。
- A 9** 正解 ×
不妊治療をすれば必ず妊娠、出産できるとは限りません。体外受精で妊娠できる確率は32歳までで5回に1回程度、39歳で10回に1回程度、43歳で50回に1回程度と報告されており、40歳を過ぎると難しくなります。(P13・表2参照)
- A 10** 正解 ×
平均初婚年齢が、以前と比べ高くなる傾向をさす言葉です。全国的に晩婚化傾向にあり、平均初婚年齢が平成12年には男性28.8歳、女性が27.0歳でしたが、平成24年には、男性31.6歳、女性29.2歳でした。
- A 11** 正解 ×
妊娠中の飲酒は、お腹の赤ちゃんの成長発達の遅延、低出生体重児、胎児性アルコール症候群の発生の可能性が高くなります。妊娠中の飲酒はやめましょう。
- A 12** 正解 ×
お腹の赤ちゃんの耳は、諸説ありますが妊娠6ヶ月頃には聞こえると言われてしています。羊水の中でお母さんの心臓の音や会話する声を聞いています。たくさん話しかけてあげたいですね。

妊娠すること、出産することって
いろいろな出会いがあって
とってもステキなことなんです

